

「十日町市地域おこし実行委員会」だけではもったいないということから、飛渡全域に広報しての催し、果たしてどの位参加者があるのか、気がかりなところでした。

結果は、34名が集まってくれ、新聞社も1社取材に来てくれました。飛渡地域でも集落営農や法人化を始めたところが幾つかありますが、殆どの所から来てくれていました。

「都岐沙羅パートナーズセンター」の大滝聡先生は約80もの起業に関わったと言う、地域活性化の専門家です。県北での豊富な経験をスライドを駆使して説明していただきました。

池谷よりもっと山奥という「山熊田」集落の「さんぼく生業の里」は、5人のお母さんたちが100万円ずつ出資して立ち上げて、今では3,000万円を超える売り上げと言う。地域伝来の自然素材繊維を駆使した布・縄はじめ、伝統食を求めて年間7,000人もの人たちが訪れるようになり、外からの後継者も生まれているとか。

興味ある話に惹きつけられるばかりでした。

しかし、意外な展開はその後に。

集落営農を目指しているある参加者から、「同じ地域に住みながらお互いをよく知らない。今日を機会にネットワークを作ったらどうか」、これを聞いたほかの参加者数名も「是非やろう」という応え。

あっという間に、連絡会的なものを作ろうと言う合意ができてしまいました。

早速に4月13日午後1時30分より池谷集会所に集まり、今後について話し合うことに。

もとより周辺地域との連携は必要な事と考えていた課題でもありました。